

桜花の候 宮崎県防衛協会宮崎支部会員の皆様にはご清福の段、大慶に存じます。また皆様には日頃より当支部運営に際し、物心両面に亘るご支援を賜り、支部長として心より御礼を申し上げる次第です。

さて先月八日に五十三回目の「三十二連隊創立記念行事」が大宮駐屯地で開催され、先輩や同期達と旧交を温めて来ましたが、皆一様に年を取りこの一年間で鬼籍に入られた老兵達も随分と増え「明日は我が身」と、改めて考えざるを得ません。(笑)

また十四日は、大阪市中央公会堂にて「全国防衛協会青年部会・第十四回大阪青年研大会」を、初代特殊作戦群長で現在は明治神宮の荒谷至誠館長を講師にお招きして開催し、全国から数多くの同志が集結致しました。

そして二十一日は第五十八期高等工科学校生徒卒業式が武山駐屯地にて挙行され、三百名にも及ぶ若桜達の門出を、学校職員やご家族と共にお祝いしたところでした。

ところで昨年末の記事なので些か旧聞に属する箇所も有りますが、今読み返しても充分現状に耐えうると判断し転載致します。皆様も何卒ご一読下さい。

ルーブル暴落、トラバサミにかかったプーチン

アベノミクスには原油安の、神風が吹いた

政治評論家 杉 浦 正 章

まるで大統領プーチンはロシアンルーレットの引き金を独りで引き続けているかのようである。ルーブル暴落という経済危機に直面しながらウクライナ介入をやめようとはしないプーチンは、国際政治の仕掛けたトラバサミのわなにはまって抜け出すべを知らない。

仕掛けたのは米国とサウジアラビアであると記者会見で名指したが、そうだとすれば胸のすくように見事なる、陰謀である。石油・天然ガスに輸出の七割を依存するロシア経済に目を付け、その暴落を謀れば確かにロシア経済は危機に瀕する。プーチンは進退窮まった様相である。

逆に、日米経済にとってはエネルギー価格の低落は願ってもないクリスマスプレゼントとなる。アベノミクスには紛れもなく、神風である。

石油減産が議題となった石油輸出国機構(OPEC)総会でサウジが減産に反対したときから、なぜ自らの利益に反することをするのかと頭に引っかかっていた。狙いはロシア経済にあったのだ。プーチンが十八日の記者会見で「石油価格についていろいろなことが言われている。サウジとアメリカが共謀したとかだ」と憤まんをぶつけたが、ロシアの一番弱い脇腹へのオバマの一撃であり、膠着状態のウクライナ情勢の転換を狙ったものであろう。国際政治の「恐ろしさ」をつくづく感じさせる。

プーチンはまるつきり油断していたことになる。もともと米欧の経済制裁の効果が出るのはまだ時間がかかると見られてきた。ところが押している欧米がつんのめるようなロシアの経済危機である。オバマはさらなる一撃を用意している。それは議会で通った経済制裁追加発動法案の署名である。オバマは近く署名する姿勢であり、プーチンの方向転換を迫り続け、手を緩める気配はない。水に落ちた犬は叩かれるのだ。

そもそもプーチンは、クリミア併合で国民的英雄視されて支持率が八十%台となり、これを維持するためウクライナ東部への軍事介入を続けている。まさにポピュリズムの極致のような政策をとり続けており、国際的には孤立化の色彩が濃厚だ。

逆に国内経済は石油天然ガス依存のOPEC並みの「不労所得経済」に徹して、産業基盤を整えることなどつゆほども思いが至らなかった。産業の近代化などより、手っ取り早いエネルギー輸出に力を傾注して、人気を保ってきたのだ。

折から米国では格安のシェールガスが大量生産の時代に移行し始めて、これが石油価格の低落に大きな要因として作用した。西欧、中国などの不況も石油の需要を鈍化させ価格低下を後押しした。この石油安の流れは構造的なものであり、中期的には反騰の気配はない。

この西側の制裁と原油安というダブルパンチの窮地をプーチンが脱するには、欧米にひざまずいてウクライナへの介入をやめ、制裁解除を求めろしかない。制裁解除を得て国内経済の近代化を成し遂げ、石油に依存しない経済構造を作り上げるしかない。プーチンは金融危機を「中央銀行の為替介入が早ければ、この事態にならなかった」と発言したが、自らの責任を転嫁するような姿勢ではこの危機を脱する事はできまい。

一番危険なのはロシアの民族主義をおおって、ウクライナへの介入強化を売りにして自らの地位を保つという方向を選択することであろう。だが「戦時経済」が長続きすることはあり得ない。いくら外貨準備が四一九〇億ドルと言っても、じり貧では展望は開けない。

プーチンがかつてのソ連のように米国と対峙するような方針が成り立つと思つているとすれば、時代錯誤もいいところであろう。ロシアの国内総生産(GDP)は二百兆円で米国の七分の一。軍事費は九兆円で米国の八分の一。もはや大国ではないのである。自らの大きさに合わせた穴を掘るべきであろう。プーチンは身分不相応の「火遊び」を早期にやめるべき時だ。

日本経済への影響は短期的にはプラスに作用するものとみられる。エネルギー価格は一割低下すれば国富が二兆円流出しないで済むといわれる。夏以来バレル当たり百ドルが五十ドル台半ば。四割の低下は大きい。地方が苦しんだガソリン価格も一週間でリッター三円下がっている。灯油も値下がりにしている。電気料金も引き下げに動かざるを得まい。プラスチックなど原材料も値下がりする。

原油安は、産業の生産コストを引き下げ、活性化させる。円安による値上がりを相殺して、アベノミクスには追い風だ。安倍はこのチャンスを活用してアベノミクスの定着を図るべき時だ。米国経済も、「シェールガス」効果と相まって、消費や企業業績の好転につながるとみられている。米国株も日本株も上がり始めた。(敬称略)

弊社の小さな花壇にも漸く春が訪れ「紅花常磐マンサク」の濃いピンクの花が満開となりましたので、お近くにお越しの節は是非ともお立ち寄り頂ければ幸いです。

平成二十七年四月一日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦